

稲作緊急特報

魚津市農業技術者協議会

北陸地方の梅雨明けは7月14日頃と平年より9日早くなりました。また8月の気温は平年並みから高めと見込まれています。

今後は、適切な水管理や追肥により、稲体の活力を維持し、産米の品質向上に努めましょう。

1 コシヒカリの追肥

1回目穂肥の施用後や基肥一発栽培の場合でも、出穂前の葉色を確認し、葉色が基準以下の場合は追加穂肥を施用しましょう。

(1) コシヒカリの葉色診断

◎葉色診断の時期 7月26~29日頃(出穂10~7日前)

(2) 葉色の基準と淡い場合の追肥の量

| | | | |
|--|---|---|--------------------------------|
| 基肥一発肥料栽培の場合 葉色が4.0未満 (砂壤土では4.2未満) | ⇒ | 追肥対応 【追肥3号】 5~10 kg/10a 程度 | 遅くとも出穂 3日前(8/1頃) までに施用する |
| 分施栽培の場合 1回目穂肥施用後でも 葉色が4.0未満 (砂壤土では4.2未満) | ⇒ | 2回目穂肥を増量 【追肥3号】 12~15 kg/10a 程度 | |

◎穂揃期の葉色を4.2~4.5へ誘導しましょう。

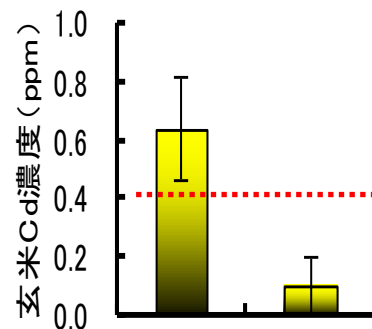
2 出穂後20日間の湛水管理

稲の活力維持、品質向上、カドミウム吸収抑制のため、出穂から20日間は田面が出ないように、水を溜めておきましょう。

(水深3cm程度に水を溜め、田面が露出する前に再度入水する。)

【限りある用水を有効に利用しましょう】

- 水のかけ流しは絶対しない。
- 水尻はしっかり止める。
- 畦畔から漏水がないか点検する。



間断灌溉 20日湛水

図 水稻の出穂後の水管理と玄米中のカドミウム濃度
産米流通対策地域の県有施設ほ場での試験結果(農研, コシヒカリ)

20日間の湛水管理の後は、収穫の5~7日前まで間断かん水を行いましょ。